

「荒川の五色桜」再び



桜の名所としてにぎわっていた大正時代はじめの「荒川の五色桜」の絵はがき（足立区提供）

同区では、この五色桜を復活させたために、81年に区制50周年記念事業として、ポトマック公園から3000本の苗木の「黒桐り」を実現させ、一部を荒川沿いの都市農業公園などに植樹。91、93年度には国交省

から「桜つみみモデル事業」の認定を受けた河川敷の一部に約120本を、1999年度には区民の寄付などで15本を植樹した。だが、五色桜の復活作戦は、ここであっただん中

足立区西部の江北地区一帯は、明治時代から昭和初期にかけて、当時は珍しかった八重桜など様々な品種が植えられた桜の名所だった。ピンク、白、紅色など「五色の薨がたなびくように見える」ところから、「荒川の五色桜」と呼ばれた。1917年には、東京市長だった尾崎行雄が、この五色桜から苗木3000本を米国・ワシントンに贈呈。苗木を植えたポトマック公園は世界的な桜の名所になったが、本家の五色桜は堤防工事や公害の影響で跡形もなくなってしまう。

足立区

昭和初期まで桜の名所として愛された荒川河川敷の桜並木「荒川の五色桜」をよみがえらせようと、足立区が本格的な復活事業に乗り出す。来年度に植樹計画をたて、まず2011年度までの2年間で4000本を植樹。12年後の20年度までに全長5キロにわたって計約1700本の五色桜を植えるという大きな事業だ。河川敷を管理する国土交通省もモデル事業への認定を前向きに検討しており、実現すれば日本有数の桜並木となる見通しだ。（岩永直子）

12年で5キロ1700本 計画始動



から「桜つみみモデル事業」の認定を受けた河川敷の一部に約120本を、1999年度には区民の寄付などで15本を植樹した。だが、五色桜の復活作戦は、ここであっただん中

から「桜つみみモデル事業」の認定を受けた河川敷の一部に約120本を、1999年度には区民の寄付などで15本を植樹した。だが、五色桜の復活作戦は、ここであっただん中

断した。国が管理する堤防に木を植えるには、堤防の治水能力を損なわないように、根が届く部分まで盛り土をする必要が義務づけられている。この盛り土が、土手に接する都道や首都高速の橋脚に影響を与える可能性があるとして、首都高速道路や都との調整が難航。国の許可がなかなか下りず、区の財政難もあって、植樹は一時、頓挫した。

しかし、「あだち・荒川」土手に桜を植える会や、五色桜の復活を願う地元市民団体が、国や区に陳情を重ねた結果、区は昨年度

から同省荒川下流河川事務所と交渉を再開。まずは橋大橋と江北橋の約900本の区間について、新たに国のモデル事業に認定するよう求めた。

これを受け、国交省は今年度に約450分の盛り土の設計費用を予算計上することがついで、とてうれしうと、話している。

桜を植える会の石川正事務局長は「世界に誇れる荒川の五色桜が復活するめどが、とてうれしうと、話している。

の姿勢を示している。同区は秋までにモデル事業の申請をし、正式に認定されれば来年度から植樹の設計に着手する。